

第6学年 道徳科学習指導案

令和4年10月20日（木）第5校時

- 1 主題名 誰にでも偏見の心が 内容項目【C 公正、公平、社会正義】
- 2 ねらい 父や陽太の話聞いて自分の考え方を見つめ直す主人公「ぼく」の気持ちを考えることを通して、悪気がなくても周りの人に対して偏った見方をしていることに気づき、誰に対しても公正、公平な態度で接し、多様な背景をもった人々と協調して生きていこうとする態度を育てる。

教材名 「未来を見つめるまなざし」

（出典：彩の国の道徳「未来に生きる」埼玉県教育委員会）

3 主題設定と理由

（1）ねらいや指導内容について

本主題は、小学校学習指導要領の内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」の〔公正、公平、社会正義〕、第5学年及び第6学年「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること」をねらいとしている。これは、第3学年及び第4学年の「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること」を受け、中学校の「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」へと発展していく。

本指導内容は、社会正義の実現に努め、公正、公平に振る舞うことに関するものである。集団や社会において公正、公平にすることは、私心にとらわれず誰にでも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることである。身近な差別や偏見に向き合い、公平で公正な態度で行動できるようにすることが求められている。また、日本人の子どもを含め、異文化理解・多文化共生の考え方に基づく教育の更なる取組が求められている。このことも踏まえ、本教材は、見た目が外国人アスリートのような児童を話題とし、「公正、公平、社会正義」について考えることを意図としている。教材では、外国人についての人権を窓口としているが、他の人権課題にも視点を広げることで、自分にも偏った見方や考え方をして無自覚のうちに人を傷つけていることがあるのではないかと、改めて自己を振り返り考えられるようにしたい。

見た目や思い込みによる偏見をもって相手と接してしまうというのは、本校においても大きな課題として考えられている。外国籍の児童が転入してくる機会も多くなってきているため、見た目や思い込みによる偏見に捉われることなく、多様な背景を持った人々と協調して生きていこうとする態度を育成することで、児童の豊かな人間性を育てていきたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

日常的に友達と仲良く過ごし、活発で元気な児童だが、精神的な幼さや自分本位な考え方が原因となり、トラブルが起きることもある。指導する際に話を聞いてみると、先入観や思い込みから相手を責めてしまったり、相手の思いをしっかりと聞かずに自分の意見をぶつけてしまったりしてトラブルになっているケースが多い。楽しいときには多くの友達を受け入れることができるが、偏った見方をして視野が狭くなり、それが原因でトラブルになってしまうことが本学級の課題である。そのため、先入観や思い込みで決めつけずに、冷静に相手のことを考えてみるよう、個人や学級全体へ日々継続的に指導を行っている。

そこで、本主題の学習が今後の生活に生かせるように、児童一人一人の考えや経験を事前に調査した。

本主題に関する意識調査 34名（9月13日実施）

質問事項	回答
1 見た目や思い込みで、決めつけて物事や相手を判断してしまっことはありますか。	・ある 21人 ・ない 13人
2 (あると答えた人のみ) どんなこと(場面)がありましたか。	・見た目は怖そうな人だが、話してみたらとても優しくかった。 ・外国人みたいな見た目というだけで、日本語が通じないと思ひ込んでしまった。 ・大人はみんな力が強そうに見える。 ・静かで話しかけにくそう人のように見えたが、話してみたらとても明るくて話しやすかった。
3 見た目や思い込みで、相手に自分のことを決めつけられてしまったことはありますか。	・ある 9人 ・ない 25人
4 (あると答えた人のみ) どんなこと(場面)がありましたか。	・見た目だけで、真面目だろうと思われた。 ・初めて会った友達に怖がられた。

意識調査から、見た目や思い込みから、先入観をもって考えてしまうという自覚がある児童が多いことが分かった。どんな場面があるかを聞いた結果、見た目に大きな影響を受け、見た目だけで判断してしまう場面が多かった。決めつけられた側に立ったことがあると感じている児童は少なかったが、あると答えた児童は、やはり見た目で決めつけられという場面が多かった。意識調査で多く挙げた「見た目」による判断は、本時で使用する教材の内容にも深く関わってくる。児童の体験や思いを大切にしながら教材に触れ、道徳的諸価値を深めていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

主人公のぼく（小学校6年生）と友達の陽太は、陸上競技大会の100m走で、テレビで見る外国人アスリートのような選手が入場して来るのを見た。その見た目から、いかにも足が速そうで、すごい走りを見せてくれるのではないかと期待していた。陽太と外国人アスリートのような見た目の選手が同じ組で走り、結果は陽太が1位で、外国人アスリートのような見た目の選手は3位。見た目とは裏腹な結果に、ぼくは期待外れで裏切られたような思いをする。次の日の夜、テレビでオリンピックのニュースを観ていた父親から、どんな選手にもたくさん努力してきた背景があるという話を聞き、陸上大会で見た外国人アスリートのような選手のことを思い出す。後日、公園で陽太から、大会後にあの選手と再会したという話を聞く。陽太からあの選手の人柄や積み重ねてきた努力について話を聞き、世界には自分の目に見えていないことがたくさんあることを知る、という話である。本学級の児童の実態を受け、主に次の視点を中心に話し合い、ねらいに迫る。

① 外国人アスリートのような選手が入場する様子を見ている場面

ここでは、外国人アスリートのような選手が入場しているのを見て、その見た目から、ものすごく速そうだと勝手に期待してしまう僕的心情を考えさせる。ぼく的心情を考えながら、見た目や思い込みで偏った見方をしてしまうことは、誰にでもあるということについて、人間理解を深められるようにする。併せて、外国人アスリートのような選手が3着でゴールという見た目とは裏腹な結果に対するぼく的心情を考えさせる。

② 父親から話を聞いたときの場面

父親から、オリンピック選手に関するテレビ番組について話を聞いた僕的心情について考えさせる。どんな選手にも、目には見えないそれぞれの努力や苦労があったのだろうということを知り、陸上競技大会のことを思い出しながら、心情が変化していく部分をしっかりと捉えさせたい。自分の中にある偏った見方や考え方を自覚したぼくの心の内を考えられるようにする。

③ 未来を見つめるように話す陽太の話を聞いているときの場面

陽太から外国人アスリートのような選手の努力について話を聞いているときのぼく的心情を考えさせる。前向きな思いをもったぼく的心情を考えることを通して、相手のことを知ること、相手のことを知ろうと自ら働きかけることのよさや大切さを考えさせる。

以上のことを踏まえて、「公正、公平、社会正義」についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して、自己の生き方を深めたいと考え、本主題「誰にでも偏見の心が」を設定した。

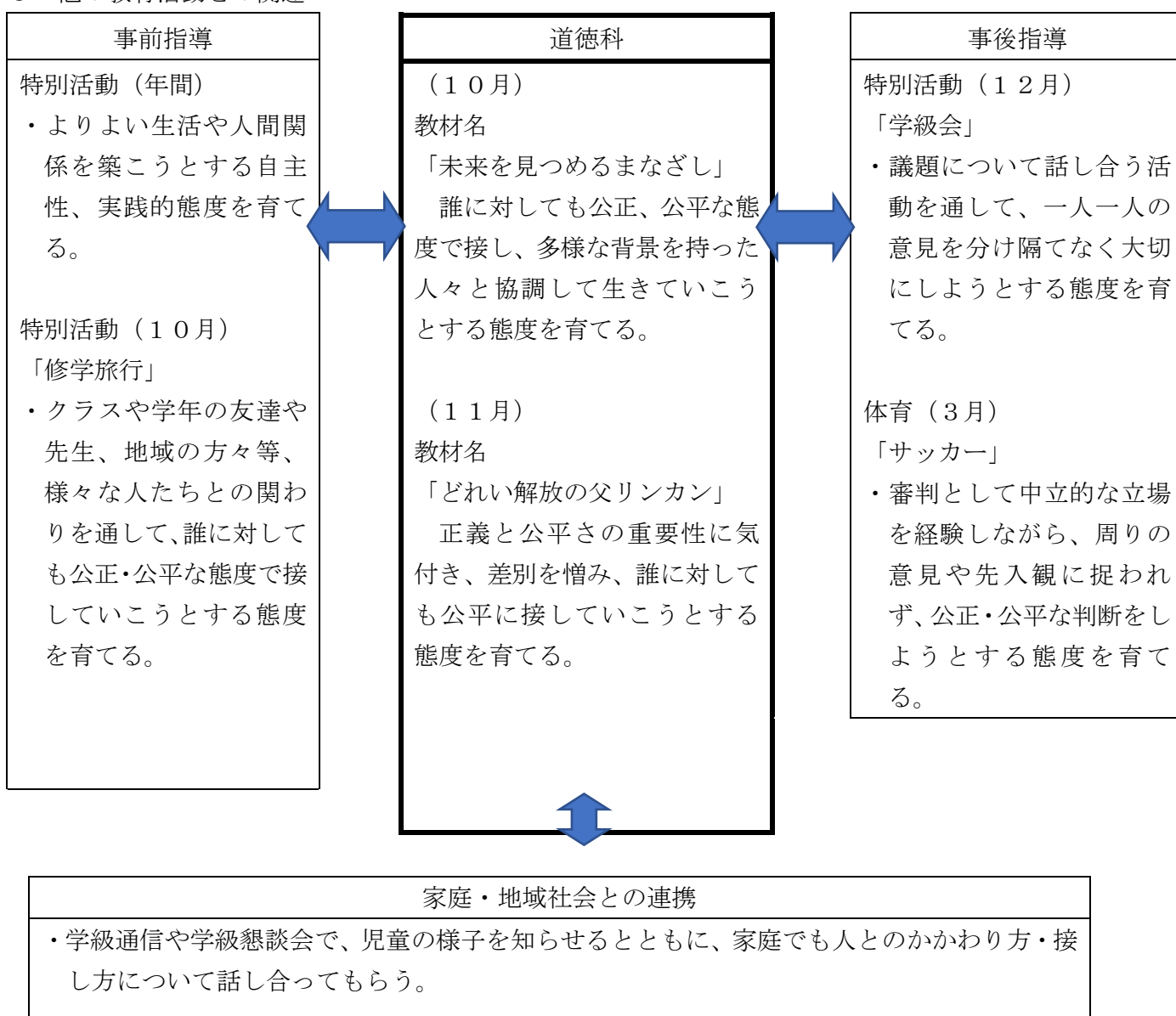
4 学習指導過程

段階	学習内容・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	1 写真を見比べて、感じたことを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人のほうが足が速いと思う。 ・若い人のほうが力が強いから、重いものを持てると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国にルーツをもつ陸上選手と日本人選手の写真、シニアの重量挙げ選手と一般人の写真とを見比べる活動を通して、人は見た目だけで様々なことを判断してしまいがちだということを体感させる。 	3分
展開	<p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>3 教材「未来を見つめるまなざし」の読み聞かせを聞き、話し合う。</p> <p>○外国人アスリートのような選手が入場してくるところを見ているとき、ぼくはどんなことを考えたでしょう。</p> <p>(補助発問)</p> <p>○外国人アスリートのような選手が3着でゴールしたとき、ぼくはどんなことを思ったでしょう。</p> <p>○父の話を読み、自分の考え方との違いに気づき始めたぼくは、ベッドに横になって、ど</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">なぜ相手をきめつけて見てしまうのでしょうか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【登場人物】【条件・状況】</p> <p>○ぼく ・父 ・陽太 ・外国人アスリートのような姿の選手</p> <p>ぼくは陸上競技大会の100m走で、友達の陽太と、いかにも足が速そうな外国人アスリートのような姿の選手と一緒に走るのを見ていた。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・あの選手絶対早い。 ・もう1位は決まりだ。 ・勝てっこない。 ・陽太が1位はとれない。 ・どれだけすごい走りを見せてくれるのだろう。 ・思ったより速くなかった。 ・意外と遅かったな。 ・見た目ほどでもない。 ・期待外れ。 ・あの選手もたくさん努力してきたんだろうな。 ・見た目だけで決めつけてしまうのはよくないことか 	<ul style="list-style-type: none"> ・見ただ目で決めつけている僕の心を考え、誰にでも悪気はなくても偏見をもっていることがあることについて人間理解を深められるようにする。 ・目には見えない一人一人の生き方や努力に称賛を送る父と、目に見える結果や見た目だけで判断していたぼくの違いを 	5分 5分 7分

展 開	んなことを考えたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> • かもしれない。 • これまでに見た目で決めつけたことが他にもあったのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> • 比較できるようにする。 • 自分の中にある偏った見方や考え方を自覚したぼくの心の内を考えられるようにする。 	5 分
	○未来を見つめるように話す陽太の話を聞き、ぼくはどんなことを考えたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> • 見ただけじゃそんなこと分からなかった。 • あの選手も見えないところで頑張っていたんだな。 • 相手を知ることって大切だな。 • 見ただけでは分からない素晴らしい面がたくさんある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 相手を知りたいという思いをもつことや、実際に相手に働きかけることの大切さに気付く僕の気持ちから、偏った見方をなくし、よりよい関係を築くことについて希望を持たせるようにする。 	
	○なぜ相手をきめつけて見てしまうのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> • 見た目だけしか見ていないから。 • 相手のことを深く知らないのに、勝手な思い込みをしてしまうから。 	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の課題について深く考えることができるようにする。 	13 分
	○きめつけずに相手のことを知ろうとするこのよさとは何でしょう。	<ul style="list-style-type: none"> • 相手の本当の人物像を知ることができる。 • 相手のよいところに気付ける。 • 相手の努力を認められる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 無自覚のうちに悪気はなくても偏った見方や考え方をしていたことがなかったか、話し合いを通して考えを深める。 	
	○偏った見方をしてしまう場面は、どんなものがあるでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> • 男、女は○○だ。 • 外国人だから…。 • お年寄り弱い。 • 体格が大きいと怖い。 • ふつうは○○。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆教材や日常生活を通して、悪気がなくても周りの人に対して偏った見方をしてしまう場面について、様々な視点から考え、話し合っている。 	
4 今日学習を振り返りながら、今後の自分の在り方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> • 偏った見方、考え方だけで決めつけず、相手を知ることが大切。 • 偏った考え方が差別や人権問題を起こしてしまうこ 	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の課題を意識しながら、学習を通して気付いたこと、考えたことをまとめる。 ☆偏った見方、考え方や先入観で相手を判断せず、誰に対し 	5 分	

		ともある。	ても公正・公平な態度で接することについて、自己を見つめながら考えている。	
終末	5 教師の説話を聞く。		・人権に対する思いを巡らせ、今後の生き方へとつなげていけるようにする。	2分

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・教材や日常生活を通して、悪気がなくても周りの人に対して偏った見方をしてしまう場面について、様々な視点から考え、話し合っている。

【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・偏った見方・考え方や先入観で相手を判断せず、誰に対しても公正・公平な態度で接することについて、自己を見つめながら考えている。

7 板書計画

